

栗山町立小中学校適正配置計画策定に関する提言書手交式 議事録

令和6年10月2日（水）18:50～19:30
栗山町総合福祉センター 中ホール

進行：事務局

1. 開 式

2. 栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会委員長挨拶

[委員長]

- ・ 提言書に記載している内容が挨拶の全てを語っていると思います。提言書を手交する際に読ませていただくので、それを持って挨拶に代えさせていただきます。

3. 提言書手交

[委員長]

- ・ 栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会は、令和6年5月9日の設立以降、栗山町立小中学校適正配置基本方針に基づき、同方針の考え方を具現化する手法・手段として、計画（案）の作成に向けて、4回にわたって会議を開催し検討・協議を重ねて参りました。
- ・ また、全国的に少子化が進む中、町内の児童生徒数も減少傾向が続き、学校の小規模化が顕著にある現状に加え、児童生徒数の予測推移等を踏まえると、教育環境・規模の適正化は必要かつ急務であるという実態が窺われ、こうした認識をもって、学校の適正規模・適正配置について積極的に検討・協議に臨んできたところです。
- ・ そのような中、検討・協議に際しては、児童生徒数の現状や今後の推移等を勘案しながら、将来にわたって、全ての子どもたちが多様な教育の機会や様々な個性をもつ友人と出会う機会に恵まれ、これからの時代に求められる資質や能力を身に付けるための教育環境を持続的に整備することを第一として、現実的な視点をもって議論を進めて参りました。
- ・ さらには、昨今の教育環境を取り巻く情勢や現行学習指導要領を鑑みて、社会に開かれた教育課程を実現し、学校・家庭・地域が一体となって共通の目標のもとで子どもたちをよりよく育むことができるよう、小中一貫教育の推進についても議論を深化させてきたところです。

- ・ なお、検討委員会では、これまでの議論により、一定の方向性や手段・手法等について取りまとめたところですが、学校の適正規模・適正配置の推進に関しては課題も多岐に渡ることが想定され、また、長期的な計画であることから、進行過程において社会情勢や教育を取り巻く環境の変化などの影響による見直しも必要となる場合も考えられます。そのような状況が生じた際は、可能な限り柔軟かつ効果・効率的な対応・措置について考慮いただくよう申し添え、より良い教育環境の整備の実現に向けて提言することといたします。

-相馬委員長より吉田教育長へ提言書を手交-



4. 教育長挨拶

[教育長]

- ・ この適正配置委員会を発足するにあたって、様々な打診を含めて4回という貴重なお時間を積み重ねていただき提言書をいただきました。
- ・ 提言書のはじめに読み上げたことが全てかと思えます。今の子ども達に求められることを幅広く理解してもらう必要があります。提言書に沿って今すぐやらなければならない短期的な目標、今後、数年間までにやらなければならない中期的な目標、将来にわたって栗山町の子ども像をどう実現するか長期的な展望に真摯に向き合いながら、提言書をもとに町総合教育会議に向かっていきたいと考えております。
- ・ いずれにしても、4回の会議の内容は、第3回目に開催した際に委員の皆様からいただいた意見に踏襲されているのではないかと思います。いち早く進めていただきたいとの意見が大半だったかと思います。それに伴ってきちんと整理し、時間をかけていかなければならないところもありますが、私自身も学校の統廃合を経験

してきていますのでスピーディーに進め、できる限り子ども達の将来に迷惑をかけるようにしていきたくと思います。

- ・ 子ども達のために栗山町固有の財産を生かした環境をしっかりと整備する。そして、経験してもらおうという事を念頭に置きながら進めていきたくと思います。その一旦ですが、毎年冬休み中に、中高生がオーストラリアへ海外留学をしています。私が教育長になってから、参加者に対して栗山町の良い所を聞く様にしています。そうしたところ、みんな口を揃えて3つ言います。まず1つ目は、“人があたたかい”。2つ目は、“町にひと通りの環境が揃っている”。3つ目は、“自然教育”です。これらは栗山町外に出ないと子ども達は分からないことです。コカ・コーラ環境ハウスやハサンベツ里山が当たり前のように栗山町にはあります。
- ・ 提言書をしっかりと受け止めて、町長の理解を得ていきたくと考えています。今後とも皆様のお力を貸していただく場面があるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 教育長との懇談

[事務局]

- ・ ありがとうございます。ここからは、吉田教育長との懇談の時間を設けます。適正配置の検討にあたってのご感想なども含めてどなたかお話しいただければと思いますが、いらっしゃいませんか。

[委員長]

- ・ 先ほど挨拶の中で、他の地域での統廃合経験があると言っていたが、その時の話で言えることがあれば教えていただけないか。

[教育長]

- ・ A市のB小学校で校長だった時の話です。私が来る前に一回頓挫しており、C学校とD学校に学区が分かれていることも揉める原因でした、そこでは教育委員会が柔軟に対応していました。それと、E市にいた時は、統廃合の話は出ていたのですが未だに解決していなく、そのままです。F市の時も統廃合に関わっていました。一般教員としてスポーツの事をやっていたため関わったのですが、行政の方々や校長先生、地域の有識者などの色々な議論を目の前で拝見しました。後は、その時の立場は違いますが、G市でも見えています。行くところどころで大なり小なり経験しています。

[委員長]

- ・ それぞれの地域で時間がかかり、課題が残されて中々うまくいかな事例もあったのかなと思いますが、そういう意味では、栗山町の場合は、方向性のまとまりがあり、他の町と比べると意見を集約しやすかったのかなと感想を持ちました。

[教育長]

- ・ そうですね。この様に、前向きな意見が多く進んでいく事例は、なかなか無いのではないのでしょうか。

[委員]

- ・ 今の話ですが、統廃合が頓挫した地域がありますよね。その地域で、統廃合を検討することになったキッカケは何ですか。

[教育長]

- ・ やはり地域です。私がB学校に行った時は新1年生が1人しかいませんでした。私は、その時に校長の挨拶で「この子が今後、社会で生きていく中で、どの様な育みをしていけば良いだろうか」という話をしました。そうすると、「学校が考える事だろう」と一言で済まされてしまいました。それは違うということを言い続けて統廃合を進めてきました。

[委員]

- ・ その地域は、人口減少による統廃合だった訳ですよね。

[教育長]

- ・ そうですね。その時に既に、学校の内部からいうと複式学級が行き詰ってまっています。それが10年前です。複式を教えられる先生も、今はほぼいない状況になっていて、なかなか厳しいです。一人で2学年を行ったり来たりするのは45分を二分しなければなりません。その時の状況でどちらかに偏ってしまうし、その中で、必ず「うちの子はどうしてくれる」という意見が出てしまいます。そのバランスというのは一人の人間でなかなか厳しいかなと思います。また、少人数だとどうしても意見が広がっていきませんし、例えば、この話題は白黒つけましようと言ってもなかなかつきませんし、逆に妥協しなければならないという話題に対してもなかなか妥協ができません。これは大人の社会と一緒にだと思います。

[委員]

- ・ 栗山町は地域の理解を求めながら進めて、そういうことにならない様にしていかないとはいけませんね。

[教育長]

- ・ 栗山町の場合は、私の耳に届いていないだけかもしれませんが、今お話しした他の地域での課題があまりない地域だと思います。地域が学校を応援する気持ちが、他の地域より強いことは大変嬉しく思っています。例えば、継立地域は学校までの距離はありますが、出来るならばその地域性を活かした方法を教育委員会が考えなければならないです。しかしながら、1クラスに1～3人という形ですと、今、学校に求められることがどうしても行き詰ってしまうことは、皆さんの意見にも書かれてる通りです。大きい学校に行くと大なり小なりデメリットも出てきます。人間社会ですので良い所も出てくれば、必ず悪い所も出てきます。しかし、悪い所につい

ては、教える側が先手を打っていく。どういう寄り添い方をするか、そういったところをこれから先、研究を重ねていかなければなりません。栗山町は、皆さんからお話いただいた事をしっかり残しながら頑張ってくれる地域でありますし、先生達も頑張ってくれると思います。

[委員長]

- ・ 研究リサーチで北海道の小規模小学校を回っています。2年前に回ったH管内の小学校は全校児童が2人でした。その前の年は4人いました。4人で何が出来るかを考えるのですが、4人が別の部屋に入りオンラインで繋いで生徒総会を行う等、色々な工夫をしていました。工夫をしていましたが2人になった時に限界が来ました。何故、そこまで学校が持ちこたえたかという、地域の学校を残したいという気持ちが先にたって、子どもが1・2人でも良いという意見が残っていたからです。最後の1人になった時には都市部の学校に移りましたが、ギリギリまでやる地域もあります。子ども達は決して辛そうな顔はしないで十分頑張っていた。私自身も中学校で男子1人、女子1人のクラスの授業を受け持った事があるが、2人だと競争しなくなって、順番も決めなくなる。どこかの段階で子ども達の集団の力を身に着ける事が出来るよう工夫するというのもこれからの1つの判断かなと思います。

[委員]

- ・ 先ほど教育長のご挨拶で、海外留学に参加した学生が「町にひと通りの環境が揃っている」とおっしゃっていたが、それはどの様なイメージなのでしょうか？

[教育長]

- ・ 例えば、ショッピングセンター、薬局、飲食店が揃っていると言っていました。地域のことを勉強している子ども達は農産物だとも言っています。そういった知識を子ども達は学習しています。それから、ここ数年間は道外の学校に進学する子ども達も増えています。自分の選択、キャリアをしっかり目標を立てながら進んでいます。そういった町外に行った時に、栗山町のありがたさ、生活のしやすさについて感じているそうです。

[委員]

- ・ 大人目線で考えていたのですが、私は町外から引っ越してきたので、前の居住地と比べると揃っていないと感じていました。子ども達が感じていることは、親も同じ様に感じる人がいるかもしれませんが、ずっと栗山町にいると分からない方もいると思います。私は栗山町に帰ってきて良かったと思っています。

[教育長]

- ・ どの様なところが、帰ってきて良かったところですか。

[委員]

- ・ 駐車代がかからないことや、道が広いこと。野菜が貰えることや、食物が美味しいことなど。家賃も違う。小学生の娘がいるが、私が知らない栗山町の歴史などを教

えてくれるので、地域に根付いた教育はすごいされているのだなと思って、帰ってきて良かったなと感じました。あと、気持ちがゆったりしているので、何か新しいことを始めようという気持ちになりました。

[教育長]

- ・ ずっと栗山町にいとそれが当たり前という感覚で、後で気持ちが追いついてくる場合もあるかなと思います。今、言われたことは非常に大事で、女性目線なんですね。そういった目線は、町づくりでは非常に大切とされていて、子育て世代の親御さんが、子育てをするために、どういうことが必要なのかとか、女性から見たまちづくりは重点的にやっても良いくらいと思っています。子どもと関わる時間は、現段階では男性より女性の方が圧倒的に多い。私ができるのは教育という町づくりの限られた一部ですが、なんとか反映できればと考えています。

[委員長]

- ・ 色々な地域から人が集まって情報が得られると、栗山町の魅力が再認識されますよね。人の交流も大事ですよ。

[教育長]

- ・ 栗山町でも企業誘致を行っていますが、町外から通勤される方もいる。他の町でも同じことが言えますが、家族で栗山町に住むとは限りません。

[委員]

- ・ 女性が働けるような会社があれば、栗山町で暮らすのではないのでしょうか。

[教育長]

- ・ 家族で来てもらうためのまちづくりが非常に大事です。検討委員会の意見の中にも、将来的には、子どもが今の教育が受けられる環境の学校が欲しいという意見が出ていましたね。非常にこれは大事なことで、例えば、今の栗山町内の学校は、教室が全て壁で区切られていますが、私からすれば壁はいらない。そのためにGIGAスクール構想というものがあり、どこにいても学習できる環境をつくって、学習権をしっかりと子どもに与えなければなりません。しかし、今の校舎自体は40年以上前の建物なので行き詰っており、他の地域で建てている新しい学校ではそういうスペースを必ず作っています。今の時代は、大企業等も仕切りがなくどこでも仕事ができます。家でも仕事をする事ができて、子育て世代の事も考えながら労働環境が作られています。学校もまさしく同じです。子どもに対する政策はお年寄りにつながる政策も沢山ありますので、それぞれがバラバラだといけません。まちづくりには、赤ちゃんからお年寄りまで共通する事が沢山ありますので、そういった観点で思考を変えていく必要があります。例えば、昔は治安があまり良くないため、子ども連れて歩きたくない印象だった地域も、現在は、安心して家族連れで歩ける地域になっています。その理由は必ずある訳です。周りを見たら勉強できる地域が沢山ありますし、お母さんと子どもがゆっくり寝そべっても安心な地域には必ず理由が

ついてくるので、栗山町ならではの安心した町づくりについて勉強し、実現していかなければならない。私自身も進言していかなければならないと思っています。

[委員長]

- ・ 今後、統合に伴って、校舎の新築・改築等を検討するわけですよね。学びやすい環境について意見を聞きながら進めていけると良いですね。

[教育長]

- ・ 他の地域では、当初60億円で計画していたのが100億円で計画していたが140億円近くになっている事例もある。まちづくりはとてもお金がかかります。栗山町の場合だと、病院の建築や廃棄物焼却施設の供用がスタートしたばかりで大きなお金が出ていくタイミングなので、色々な課の職員や議員さん、町長と話をしながら、どういった財政運営をしていくか全体のバランスを見ていかないとなりません。栗山小学校の校舎は40年以上経過しています。各教室のドアも外れそうで、トイレの臭いも取れなくなってきています。そういった事を一つ一つとっても、子ども達が自由に使える、安心して使えるというのは大事なキーワードだと思います。提言書に書かれたものについて、今できることと将来に向けて考えていくことは、財政のバランスを見てやっていかなければならないと思いますが、教育委員会としても進言していきたいと思っています。

[委員長]

- ・ そういうところは、次の協議体に引き継ぐということになりますね。

[委員]

- ・ これまで4回議論をしてきましたが、毎回こういう話になる度に少子化は大変だなと感じています。私は移住関係の仕事をしているので、子育て世帯をいかに増やせるかが仕事の命題にあるのかなと感じています。教育も人口増に繋がる1つのコンテンツになれば良いと思うところがあります。それと相反するところではありますが、自分の子ども達には栗山町にずっと残っていて欲しいとは望んでいなくて、例えば、栗山町が好きだけど一回町外に出て栗山町が良いなと思えば帰ってくれば良いし、帰ってこなくても、ふるさとはずっと栗山町だと大事に思ってくれる子どもが育ってくれたら良いなと思います。理想論になりますが、そういった事が今以上に実現していくような学校の雰囲気や、教育方針でやっていっていただければと思います。

[教育長]

- ・ お話いただいた通りだと思う。理想論を語らずして教育はありえないです。教育は追及していかなければならない、やり続けていかなければならないことは教育委員会の使命でもあると思っています。子ども達が栗山町を出ていくことは生きていく糧になるので、その分、栗山町としてどうすれば良いのかという点で、例えば、栗山高校の二間口対策は手段としてやっています。女子野球部の創設や教育大岩見沢

校と連携して吹奏楽を指導してもらっていることもそうですし、高校の校長と中学校を訪問して、ある部活の子ども達をターゲットにして勧誘する等、色々な方法があります。我々から声をかけなくても、栗山町の良さを知りたいという生徒もこの数年間で少しずつ増えています。周りを見ると不登校などが多い中で、栗山高校に来てやめる子ども達はほとんどいない、元気に学校に来て卒業する人が非常に多いです。そこは教育委員会もそうですが、各学校の校長・教頭・先生方も含めて真摯に取り組んでいただいている現状で、そういった所が数字に表れています。カウンセラーの先生に来ていただいて福祉課とタイアップし、一緒に行動している。こういったことについて、これから教育委員会でも仕掛けていきます。

6. 閉 式

[事務局]

- ・ ありがとうございます。
- ・ 以上をもちまして、栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会のすべての日程が終了いたしました。委員の皆様におかれましては、長期にわたりご協力いただきありがとうございました。
- ・ 今後は、町長、議会との協議を経て、年内の計画策定を目指してまいります。その後、適正配置の実施に向けての準備に移っていきますが、教育関係者、PTA、そして、地域のみなさまには引き続きご協力賜りますようよろしくお願いし、終了させていただきます。

19：30 終了